

平成 29 年度
学校関係者評価結果報告

平成 30 年 9 月 25 日

学校法人 榎本学園
町田調理師専門学校

平成 30 年 9 月 25 日

町田調理師専門学校
校長 榎本 美千代 殿

学校関係者評価委員会

学校関係者評価委員会報告

平成 29 年度学校関係者評価につき、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 橋本 暁一 (公益社団法人日本中国料理協会 参与)
- ② 永井 紀之 (有限会社アルチザナル 代表取締役)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

平成 29 年 9 月 20 日 16:00～17:00

(会場 町田調理師専門学校 校長室)

出席者：橋本 暁一、永井 紀之、榎本 美千代 (校長)、土橋 一輝 (副校長)、
松下 祐介 (榎本学園 事務局長)

3 学校関係者委員会報告

別紙のとおり

以 上

別紙

I 重点目標について

1 重点目標①について

卒業生の特別授業が学生のモチベーションアップに繋がることを期待します。目的が技術指導よりも、身近な成功例を見せることであるならば、例えば20代で頑張っている卒業生等、講師は必ずしもオーナーシェフでなくてもよいかもしれません。

2 重点目標②について

挨拶については、指導が行き届いていると思います。相手がだれであろうときちんとした挨拶ができるよう引き続き指導をお願いします。

II 各評価項目について

1 教育理念・目的・人材育成像

昨年の指摘と重なりますが、貴校の人材育成像である「自主独立優秀なる」調理師の「自主」の部分が最近の新人には特に欠けているように見受けられますので、学生の「自主性」を伸ばすことに力を注いでほしいと思います。

2 学校運営

特にコメントはございません。引き続き、永続的な教育活動を行うべく、適切な学校運営を心掛けていただきたいと思います。

3 教育活動

インターンシップは、学生の今後のキャリアに大きく影響を与えると思いますので、引き続き、本人の希望・適正等を極力考慮に入れて受け入れ先を選定することに注力してもらいたいと思います。調理師科（1年制）の学生については、時期や期間等を再考してもよいかもしれません。

4 学修成果

引き続き、現場に受け入れてもらえる様に挨拶や時間を守るなどの基本的なマナーと教育や衛生観念が身に着く指導をしてほしいと思います。

5 学生支援

クラス担任を中心として、きめの細かいケアをしていると思います。引き続き、現在の体制を維持してもらいたいと思います。

6 教育環境

設備は充実しており、衛生面でも問題ないとの印象です。どんな職場でも整

理整頓・掃除は必須です。引き続き、学生にはこれらの点の指導をお願いしたいと思います。

7 学生の募集と受入れ

入学してから「こんなはずではなかった」と学生が思わないように、誇大・偽装は言うまでもなく、誤解を招くような表現をしていないか、常に検証して頂きたいと思います。

8 財 務

少子化の影響は少なからずあると思いますが、教育活動を永続させるためにも引き続き、健全な学校運営をお願いしたいと思います。

9 法令等の遵守

法令遵守は当然のことと受け止め、遵法意識を高め、学校運営を行っていただきたいと要望致します。

以 上

平成 29 年度
学校関係者評価結果報告

平成 30 年 8 月 30 日

学校法人 榎本学園
町田福祉保育専門学校

平成 30 年 8 月 30 日

町田福祉保育専門学校
校長 岩本 太三 殿

学校関係者評価委員会

学校関係者評価委員会報告

平成 29 年度学校関係者評価につき、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

小泉 昇（公益社団法人 神奈川県社会福祉士会 会員）
森田 健一（社会福祉法人 合掌苑 マネージャー）
野村 明洋（一般社団法人 東京都民間保育園協会 会員）
島田 恭子（社会福祉法人 真生会理事長）

2 学校関係者評価委員会の開催状況

第 1 回委員会 平成 30 年 8 月 30 日 15:00～16:00
(会場 町田福祉保育専門学校 図書室)

3 学校関係者委員会報告

別紙のとおり

以上

別紙

I 重点目標について

入学定員は年々減少。介護分野のみならず、保育分野も苦戦している。両分野とも人材不足は今さら言うまでもないことなので、とにかく生徒募集に手を尽くすこと、永続的な教育活動を継続させること、に引続き尽力ください。

II 各評価項目について

1 教育理念・目的・育成人材像

「福祉サービスのスペシャリストを育成し実社会に送り出すこと」と目的にあるとおり、むしろ継続させることにこそ、力を注いでいただきたい。

2 学校運営

少子化により学校運営は厳しい状況のようですが、永続的な教育活動を行うべく、適切な学校運営にご尽力ください。

3 教育活動

養成校として、今まで以上に他校と較べても高い評価を獲得してゆかねばならない。教員の資質向上や授業評価には今以上に取組んでいただきたい。

4 学修成果

介護分野も保育分野も10倍以上の求人をいただき、就職率はほぼ100%。介護福祉士は初の国家試験受験で合格率91%と養成校平均をも上回る結果で良かった。高い合格率を保てる指導体制を維持していただきたい。

卒業生の社会的評価にもっと敏感になり、入学、卒業、社会での高評価という学校としての好循環に繋げて行って欲しい。

5 学生支援

生徒数が減少していることもあり、近年8%前後の退学率低減も課題。一人一人の生徒と向き合う面倒見の良さを発揮してもらいたい。

今年から受け入れている留学生への指導、相談はきめ細かく行われている様子。ぜひ継続してください。

6 教育環境

外部の方から「清潔、きれい」との声が多いとのこと。非常に重要なことですので、是非その状態を維持していただきたい。

設備に大きな変更計画はないとのことですが、30年からの施設・設備ですので必要な手直しは適切に行ってください。

7 学生の募集と受入れ

本校のありのままを伝えることが一番の募集戦略、であるならば、体験学習等、切り口を工夫したイベントを頻繁に実施して、その機会をふやす努力をお願いします。

8 財 務

厳しい状況が続くことですが、健全な学校運営を継続してください。

9 法令等の遵守

法令遵守は当然のこととして意識を高め、学校運営を行っていただきたい。

10 社会貢献・地域貢献

社会貢献・地域貢献の精神は社会福祉に携わる者にとってかけがえのないものです。学生一人一人のボランティア活動などの地域貢献を活発にして欲しい。また学校として可能な地域貢献にも積極的に取り組んでいただきたい。

以 上

平成 29 年度
学校関係者評価結果報告

平成 30 年 9 月 5 日

学校法人 榎本学園
町田美容専門学校

平成 30 年 9 月 5 日

町田美容専門学校
校長 中溝 京子 殿

学校関係者評価委員会

学校関係者評価委員会報告

平成 29 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 鈴木 則子（東京都美容業生活衛生同業組合 組合員）
- ② 河島 健（一般社団法人 一生美容に恋する会 代表理事）
- ③ 長谷川 雅一（株式会社エムエイチ 代表取締役）

2 学校関係者評価委員会の開催状況

第 1 回委員会 平成 30 年 8 月 23 日（会場 町田美容専門学校 図書室）

3 学校関係者委員会報告

別紙のとおり

以上

【別紙】

I 重点目標について

1 重点目標①について

シャンプー授業では現役美容師の協力のもと実践練習ができ、学生にとってとても有益な授業が行えているように思う。

職業実践専門課程は年々実社会とのつながりも広く深くなり、学生の職業意識や学習意欲向上につながっているように思う。

ただし、以前からの課題でもあるが、職業意識や学習意欲にはレベル差があり、すべての学生に変化があるとは言い難い。より一層、内容を再検討し、充実を図る必要がある。

学生のモチベーションを上げる事が必要だと思う。与えられたものをこなすだけでなく、自ら考えて行動することを目的としたカリキュラムづくりを期待する。

2 重点目標②について

挨拶、マナー教育の徹底は、将来の中途退職者にならない学生育成につながっていくと思います。より一層の指導を希望します。

普段の教職員との話し方、接し方から気を付けていくことが大事です。教職員にもそのことを意識した対応が必要だと思います。

学外実習の受け入れ側（企業）として、年々学生の挨拶や礼儀、そして実習態度や意欲に変化がみられ、よくなっている。

II 各評価項目について

1 教育理念・目的・人材育成像

- ・明確な目的・育成像を明示していると思う。
- ・頑張る人よりも頑張れる人を養育する教育機関として、これからも伝え続けてほしい。
- ・少子化対策として、榎本学園のブランディングをしていく時期にきている。普遍的なものを大切にしつつ、時代にマッチした将来的な構想を考える必要がある。

2 学校運営

- ・各種の制度、システム、カリキュラム等、時代のニーズを的確にとらえ、変革改革を恐れず対応してほしい。
- ・教職員のチームワーク、動きの良さをいつも感じている。次世代への伝承を心掛けている様子が見られ、好感がもてる。

3 教育活動

- ・教育のカリキュラムは充実していると思う。社会の変化や時代のニーズを読み、スピード感を持って対応してほしい。
- ・SNSの講義は今後必須と考える。内容を精査しつつ継続する事を希望する。
- ・町田美容専門学校やOB・OGの社会的評価の良さを聞く機会があると関係者としてうれしく思う。

【別紙】

4 学修成果

- ・学生の技術力、就職率・退学率等の良い結果に、教職員のサポート・粘り強い対話・指導力が表れていると思う。今後も継続されることを希望する。
- ・高齢者社会に相応しい福祉美容への取り組みやその内容が素晴らしい。

5 学生支援

- ・学費負担の軽減を目的としたアルバイト進学制度や奨学金制度の拡大を望む。
- ・経済的理由から進路変更の学生を減らす意味でも、より一層の学費軽減制度の充実をお願いしたい。
- ・卒業生の支援も重要である。入社後のサポート体制に不備不足感が否めない。企業との連絡を密にし、より一層サポート力を高める事を希望します。

6 教育環境

- ・校舎がいつもキレイにされていて感心する。
- ・実習・学科ともに最新の美容界を伝える意味で講師の切り替えも重要と考える。
- ・現状のままで問題はないが、新課程を開設予定の場合は、普通教室の増設と着付け教室の充実が必要となる。

7 学生の募集と受入れ

- ・派手さはなくとも、堅実な広報活動は榎本学園らしい。今後も続けてほしい。
- ・HP はリニューアルによってより見やすくなったと思う。今後は SNS 等も上手に利用していくことを希望します。
- ・榎本学園4校合同での広報活動がある一定ラインまではプラスとなるが、各業界の差を考慮した募集要項や社会人への広報ツールは検討する必要がある。

8 財 務

- ・現状にまったく問題ないと思う。
- ・適正なものと認知している。

9 法令等の遵守

- ・現状にまったく問題ないと思う。

10 社会貢献

- ・学生時代に、地域・社会への貢献やボランティアを体験できる機会のあることは素晴らしい。
- ・学生時代に芽生えた、社会の中で活かされている実感やボランティアの心が実社会でより一層成長するという考えに共感する。

以 上

平成 29 年度
学校関係者評価結果報告

平成 30 年 8 月 28 日

学校法人 榎本学園

町田製菓専門学校

平成 30 年 8 月 28 日

町田製菓専門学校
校長 榎本 雄文 殿

学校関係者評価委員会

学校関係者評価委員会報告

平成 29 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 前田 聖子 (東京都洋菓子協会 理事)
- ② 佐藤 哲哉 (株式会社ありあけ 執行役員)
- ③ 松村 有希子 (株式会社ありあけ 卒業生)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

- 第 1 回委員会 平成 26 年 8 月 26 日 (会場 町田製菓専門学校 カフェ実習室)
- 第 2 回委員会 平成 27 年 9 月 2 日 (会場 町田製菓専門学校 カフェ実習室)
- 第 3 回委員会 平成 28 年 8 月 31 日 (会場 町田製菓専門学校 カフェ実習室)
- 第 4 回委員会 平成 29 年 8 月 30 日 (会場 町田製菓専門学校 カフェ実習室)
- 第 5 回委員会 平成 30 年 8 月 28 日 (会場 町田製菓専門学校 カフェ実習室)

3 学校関係者委員会報告

別紙のとおり

以上

別紙

I 重点目標について

1 重点目標①について

実践的な職業教育機関として、実社会と接点を持つということは重要です。前年同様、今後も、企業関係者の特別実習や講義を積極的に取り入れていく事を引き続きお願いします。

2 重点目標②について

社会人としてのマナーや礼儀というのは、実践教育を掲げる専門学校にとってとても重要なテーマです。引き続き目標を掲げて指導してください。

II 各評価項目について

1 教育理念・目的・人材育成像

社会のニーズが多様化してきている現代においては、洋菓子、パン、カフェなど様々な知識・技術を習得する機会を設けることは、とても大切なことだと思います。引き続き、社会のニーズに合致した人材育成を心がけてください。

2 学校運営

特になし。

3 教育活動

資格取得に向けて、試験対策や補講を行っているのは、良いことだと思います。今後も引き続き合格率100%を目指して指導にあたってください。

4 学修成果

就職率が毎年高いのは、とても良いことです。1年生のうちから行っている就職関連の授業などが、就職への意識を高めるために効果的に作用しているのだと思います。

毎年言ってますが離職率が業界全体で高いので、就職先でのミスマッチが起きないように、今後も面談を重ね、学生さん個々の能力に適した就職先というのを決定していただければと思います。

5 学生支援

中途退学率が、あがりましたね。学生の性格や性質も時代とともに変化していくものです。教職員の方の意識もそれに伴って変化していく必要があるように思います。

今後は、学生さんの異変をいち早く察知し、教職員間で情報を共有し、学校全体で、問題の早期解決を図れるよう指導にあたってください。

6 教育環境

特になし。

7 学生の募集と受入れ

特になし。

8 財 務

学費を増額するようですね。材料コストの増加など、やむを得ない部分もありますが、今後学納金が増加しないよう、経費削減に注力し、学生への負担が減るよう引き続き努力してください。

9 法令等の遵守

特になし。

以 上